

前を向いて。

この1年は本当にコロナに振り回されてばかりでした。二度に渡る緊急事態宣言の発令と3密対策にともない、竹山商店街のイベントはもちろん、夏と冬の『ひょうげんライブ』も中止。「マスク!」「手洗い!」「消毒!」の声が毎日のように飛び交い、慣れない『在宅ワーク』の導入…。できる限りのことはやってきた『つもり』でした。

それでも結局、2月に入って2週間の閉所を余儀なくされ、

そして、かけがえのない大事な『仲間』を失いました。振り返ってみれば、もっと「あーしておけば」「こーしておけば」と思うことだらけ。でも…。

「前を向いて」…後ろばかりを見てもキリがないのです。パウンドケーキに『黒豆きなこ』、クッキーに『ごま』『アールグレイ』『ベッパーチーズ』の新しい味がドドンと加わりました。コロナ禍でテイクアウト販売が中心ですが、店頭がとっても華やかになっています。そして、この春、新メンバーさんがドドンと3名も、カプカプ竹山に仲間入りします。またまた賑やかな毎日になりそうです。

「前を向いて」…そう、もう新しい毎日が始まっているのです。その様子は、フェイスブック・インスタグラム (<https://www.instagram.com/kaputake>) で配信中です。いいね・フォローよろしく願います! 『kaputake』で検索!! (海老原克憲)

こんにちは! 事務局の志賀です。

2020年度はコロナに翻弄された年ではありましたが、前向きな話もあります。例えば、メンバーの自宅やグループホームへ送迎する機会があり、彼/彼女たちの生活の一端を垣間見ることができました。住んでいる場所というプライベートな一面を知ることによって、「働く」姿だけでなく、「生活する」姿がわかり、より親近感が湧きました。それから、コロナによる事業所の減収対策として、各種助成金を獲得しました。雇用調整助成金や小学校等休業対応助成金などを獲得し、減収の影響を最小限にしました。今後もコロナに限らず、運営上、助成金が必要な時があると思います。今回はそのコツを知ることができたことがよかったです。2021年度も先を見通すことは難しいですが、事務局として事業所支援に努めてまいります。

(写真右:PCR検査用に採取した検体容器。コロナ禍を生き抜くワンツーンとして。)

やまなし

カプカプ川和
横浜市都筑区川和町1288-1
さかなや2 1階
045-938-5801

カプカプ竹山
横浜市緑区竹山3-1-8,3102-203
045-934-6668

カプカプひかりが丘
横浜市旭区上白根町891-18-4-103
045-953-6666

クラムボンほか
かぶかぶ
あらったよ。

疫病退散

題字:キヤマジュンスケ、「マナビエ」イラスト:ナカハラマナミ

FHSネットカプカプ 新会員募集と継続加入のお願い

「やまなし」は、NPO法人カプカプの後援会「FHSネットカプカプ」の通信です。カプカプの活動を支援する仲間を広く募集しています。

- 年会費 1,000円以上任意の金額
- 振込先 ゆうちょ銀行の振替貯金 (旧郵便振替)
00290-2-36249
- 所在地 〒241-0001 横浜市旭区上白根町891-18-4-103
カプカプ内 (TEL/Fax 045-953-6666)
- HP kapukapu.org
- メール kouenkai@kapukapu.org



「櫛田図鑑」 富田のぞみ



新井一座のダンスWS (背中ゴシゴシ)



「丑」 (カブカブ竹山)



「テンテンの動物たち」 中原真波



カブカブで
アサダワタルと
カブカブプラジ
オ
フモトノール
ツ



「不思議な色のアルマジロ」 渡邊鮎彦



ミロコマチコWS



「花森安治のデザイン」 富原貴俊



「ペットショップのポメラニアン」
メイド部ブチョー
(畦川茉由)

商品。このアルコール消毒液を、メンバー家族、グループホームスタッフさん、常連さんたちにも原価でお譲りし、またスタッフには、家庭での消毒を徹底してもらえるように、無償配布して協力してもらっている。カブカブでの日常でも、全スタッフが消毒液ボトルを常時携帯し、おそらく病院の医療従事者並みに、相当こまめに消毒をしている。とにかく、消毒、換気、距離感、そして体調管理。あとは、充実した、愉しめる日々をつくること。笑い飛ばせることは笑い飛ばして、免疫力を高めること。



パンケーキパーティーの図

充実した、愉しめる日々をつくるためには、メンバーの仕事これまで以上に必死に創出しなければならない。店を閉めていない分、店を閉める決断をした事業所よりは店の売り上げを何とか維持できている。とは言え、例年に比べれば、お菓子の売り上げも、喫茶の売り上げも、確実に落ちている。売り上げが無ければメンバーにお給料が支払えない!! だから、特にお中元やお歳暮などのまとまったご注文は、本当にありがたかったし、外出を控え、お店に出てこれなくなった常連さんから配達のご注文をいただいたことも、本当にありがたかった。普段はあまり積極的に探さない横浜市関連の受注も、情報を探して良いのがあればどんどん手を挙げた。おかげで、何とか今年も例年通りメンバーにボーナスが支払えて、本当にほっとした。私たちスタッフは「慰労金」なるものを頂けたけれど、私たち以上に、制約に伴うストレスの影響を受けながらも、必死に気持ちを前向きに保って、お客さんが愉しめるお店づくりをがんばってくれたメンバーたちだから、その労に、少し報えた気がして、とてもうれしかった。

制約に伴うストレスの影響を、おそらく、私たち以上に受けるであろうカブカブメンバーたち。だからこそ、カブカブでの暮らしの中に、「コロナ禍に負けるな!」応援企画として、普段はあまり私自身の優先課題に上がらない「お楽しみ企画」を意識的に盛り込むようにした。そのひとつが、毎週水曜日のまかない調理ランチ。食べることは、カラダと、ココロを、満たしてくれるものだから、なかなか外食できない今だからこそ、様々なメニューに調理チームが奮闘して挑戦してくれた。隔月で開催しているカブカブの3つのワークショップ(新井一座のダンスWS、ミロコマチコさんのアートWS、アサダワタルさんのラジオWS)も、リモートを駆使したり、会場をあっちこっち変更したり、機材をあれこれ買い足したり、配線をあっちゃこっちゃ延ばしたりしながら、カブカブらしさと、カブカブズのパワーが激まないようにと、できうる限り、できうる形で開催を続けてきた。

毎年恒例のお祭りも、地域全体で開催する夏祭りを除いてほぼ全て開催に漕ぎつけた。喫茶開店記念を祝う「カブカブ祭り」は2020年9月5日に開催。ひかりが丘地区の「福祉」と名の付く団体が集結して地域住民たちと秋の一日を祝う「ひかり福祉フェスタ」は、カブカブオリジナル版の「ひかりニャンチュウフェスタ」として11月13日に開催。また、毎年7月に旭区の障害事業所が一堂に会して開催する「あっぱれフェスタ」は、「リモート版あっぱれフェスタ」として、2月中旬から3月中旬に、初めての合同ネットショップ企画や映像祭などに挑戦し、旭区の仲間たちと共に賑やかに開催した。いずれのお祭りも、コロナ禍ならではの形に変貌させて、新しい出会いや企画を模索しながらの、貴重な開催経験となった。

イベントも、日々も、これまでの、「いつもの」やり方が通用しないから、考えることにも、イメージを膨らませることにも、イメージをクリアにして企画としてブラッシュアップしていくことにも、なんだか、途轍もなく時間とエネルギーが消耗した気がする。一日の最後に、眠い目をこすりながら地域の感染情報を収集して、スタッフや常連さんと情報共有したり、近隣の障害事業所で感染者が出るたびに情報を収集分析して感染可能性を評価して私たち自身がどうするかに対応を考えたりすることにも、同じくらい、時間とエネルギーを消耗した。

ここまで何とかやってこれてほっとひと息。でも、まだまだ、これから。あいかかわらず、いつ、だれが、どこで感染するかわからない。そこは、お互い様。例え誰かが感染しても、カブカブの日常は、きっとこわれぬ。カブカブの日常は、それくらい、しなやかに七変化しながら、普遍的なものをたまちつづけるはず。そういう〈場ちから〉を鍛える機会に、いつだってしなきゃあならない。せつかくの人生だもの。コロナ禍にもマケルナ! (スズキマホ)